

森に魅せられ帰郷

山や木に興味を持って、た訳ではなかった。ただ、カエデ樹液という素材に魅せられた。「この面白い素材を多くの人に知ってもらいたい」。そう考えた井原愛子さん(左)は勤め先の会社を昨年(2014年)に辞め、古里の秩父市に戻った。現在はNPO法人「秩父百年の森」のスタッフとしてカエデ樹液のイベント企画などに関わり、森林ビジネスの芽を探る日々を送っている。

二〇〇六年、家具販売大手イケアグループの日本法人「イケア・ジャパン」(千葉県船橋市)に就職した。マーケティングなどを手掛けながら、いつか起業

することを夢見ていた。そして一三年九月、秩父地方で自生するカエデの樹液を煮詰めたシロップ「和メープル」が発売されたことを知り、秩父のカエデの森をめぐるツアーに参加してみた。最初は興味本位だったが、「この森を守ろうと、地元の人たちが大学などと連携して真剣に活動している」と感じるようになった。

同六月に退社して秩父にの企画に協力した。「訪れた人たちに楽しんでもらいたい、成功だった。毎年続けて定着させたい」

樹液商品を広めるだけでなく、カエデの森を交流の場にすることも目指している。毎年二月は樹液採取の最盛期だ。それに合わせて二回の見学ツアーを計画した。定員を超える五十人の参加者を集めた。「森林を生かすビジネスのひとつとしてツアーは大きな選択肢になる」と自信になった。

ひと物語



カエデ樹液について、将来の目標を語る井原愛子さん(左) 秩父市で



昨年9月に開かれたメープルフェスティバル(左) 秩父市で(秩父百年の森提供)

いはら・あいこ 秩父市出身・在住。イギリス留学などを経て大学卒業後の2006年に「イケア・ジャパン」に入社。マーケティングや物流、イベント企画なども経験した。NPO法人「秩父百年の森」や秩父樹液生産協同組合、秩父観光土産品協同組合など樹液関連団体の活動にスタッフとして参加している。

とだ。 (羽物一隆)